

中米・エルサルバドル、イロパンゴカルデラ 3~5 世紀噴火の影響の再評価

Reevaluation of the Influence of a Gigantic Eruption from the Ilopango Caldera to Ancient Mesoamerican Societies

北村 繁 [1]

Shigeru Kitamura[1]

[1] 弘前学院大・社会福祉

[1] Hirosaki Gakuin Univ.

中米・エルサルバドル共和国中部に位置するイロパンゴカルデラ（約 8 × 11km）で、A.D.3~5 世紀に大規模な噴火が生じ、カルデラ周辺に軽石流が流下したほか、TBJ テフラと呼ばれる細粒火山灰が広い範囲に降下堆積した。メソアメリカ考古学では、従来、この噴火が、当時のメソアメリカの社会に壊滅的な影響を与え、都市の放棄や人口の移動を引き起こしたとみなすことが多かった。

しかしながら、本調査では、従来約 50cm の堆積がある（Hart & Steen-McIntyre, 1983）とされたチャルチュアパ（カルデラの約 70km 北西）において、16~18cm 程度の堆積しか見出されなかった。したがって、チャルチュアパ遺跡に降下堆積した TBJ テフラの堆積は下方修正する必要がある。また、先行研究（Hart & Steen-McIntyre, 1983）の調査結果を再検討したところ、層厚の過大評価や、対比の誤りの可能性が見出された。このため、イロパンゴカルデラの 3~5 世紀の噴火規模を明らかにし、当時の社会への影響を評価するには、より広い地域で、より詳細な TBJ テフラの分布調査を行っていく必要がある。

文献

Hart, W. H. E. and Steen-McIntyre, V. (1983): Tierra Blanca Joven tephra from the A.D. 260 eruption of Ilopango Caldera. In Sheets, P.D. ed., *Archeology and Volcanism in Central America, the Zapotitan Valley of El Salvador*, pp.14 - 43, Univ. Texas Press, Austin.